

2024年8月 門谷地区で発生した土砂崩れ



災害に備える

早めに防災対策・避難行動をとりましょう

問合せ ▶ 防災対策課 (Tel.23-7660)

ホームページID 421271855



これからの季節、台風や前線の影響で、大雨、洪水、暴風などによる自然災害が発生しやすくなります。

気象庁では、近年、雨の降り方が局地的に激しくなっている状況を踏まえ、命に危険を及ぼすような災害が予想される地域の自治体や住民の方々に、より分かりやすい情報を、より早いタイミングで発表しています。

皆さんが早めの避難などの防災行動をとることができるよう、市でも防災行政無線などを使って情報を発信しています。時間を追って段階的に発表される「早期注意情報」や「気象情報」、「注意報」、「警報」などの防災気象情報を有効に活用し、早め早めの防災行動をとるようにしましょう。

昨年の豪雨では、門谷地区の道路が土砂崩れで通行止めになるなど、本市にも多くの被害をもたらしました。日頃から災害への備えをしましょう。

今回の特集では、情報収集方法や避難準備のポイントなどを紹介します。

大雨や台風による災害は 毎年発生しています

大陸と大洋にはさまれた日本には、季節の変わり目に梅雨前線や秋雨前線が停滞し、大雨を降らせます。また、7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風などをもたらします。特に、傾斜の急な山や川が多い本市では、台風や前線による大雨によって、土砂崩れや川の氾濫などが発生しやすいです。

幸い、本市では人命に関する被害は近年ありませんが、全国的には顕著な災害を起こしたもののだけでも次の災害がありました。

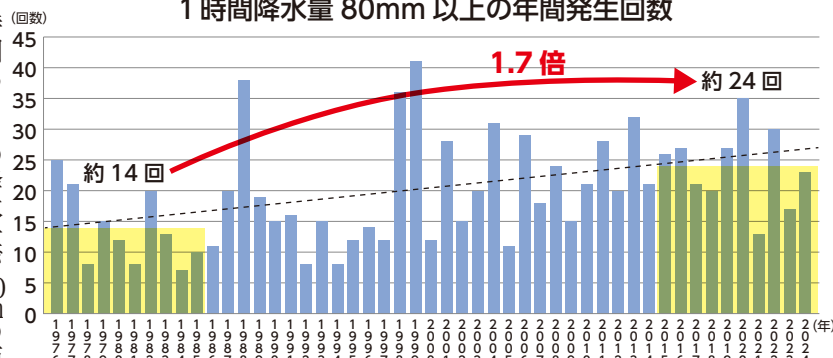
平成29年7月九州北部豪雨	死者42人
住家被害3,864棟	
平成30年7月豪雨	死者263人
住家被害51,110棟	
令和元年房総半島台風	死者9人
住家被害93,372棟	
令和元年東日本台風	死者105人
住家被害105,699棟	
令和2年7月豪雨	死者84人
住家被害16,548棟	

近年は、短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨も頻発しています。

また、雨で増水した川を見に行つて流されてしまったり、浸水した道路で側溝の境界が見えにくいために転落したりする事故も全国では発生しています。

1時間降水量80mm以上の 年間発生回数は1.7倍に

全国アメダス（1300 地点あたり）
1時間降水量 80mm 以上の年間発生回数



1時間あたりの降水量が80mmの雨は、猛烈な雨と表され、息苦しくなるような圧迫感や恐怖を感じるような雨のことを指します。

警戒レベル	避難情報等	状況・取るべき行動
5	緊急安全確保 (市が発令)	災害が発生・切迫している状況 命を守る最善の行動をとってください
4	避難指示 (市が発令)	災害が発生するおそれが高い状況 全員避難 してください
3	高齢者等避難 (市が発令)	避難に時間を要する高齢者や障害のある方は避難してください
2	洪水注意報、 大雨注意報 (気象庁が発表)	避難に備え避難行動を確認する
1	早期注意情報 (気象庁が発表)	災害への心構えを高める

最近10年間（2015～2024年）の平均年間発生回数（約24回）は、統計期間の最初の10年間（1976～1985年）の平均年間発生回数（約14回）と比べて約1.7倍に増加しています。昔に比べ、大雨になる回数が増えたり、線状降水帯が同じ場所に居座るなど、雨の降り方が変わっていることが分かります。

レベル4で全員避難

異常気象が昔に比べ増えたことにより、国は令和3年5月に災害対策基本法の一部を改正しました。これにより、5段階の警戒レベルを使用して市民の皆さんが災害時に取るべき行動が直感的に分かるようになりました。

ポイントは警戒レベル4で全員避難することです。なお、警戒レベル5は、既に災害が発生していることを表しています。

あなたの命を守るために

新城市からの情報

防災行政無線

緊急性の高い情報をリアルタイムで放送します。

新城市防災アプリ

ホームページID 296944749

スマートフォンで防災行政無線の内容を聞くことができます。



▲iPhone版



▲Android版

市ホームページ

災害時にはトップページを切り替えて、情報を集約しています。

メール配信システム

ホームページID 354146076

メール配信システムに登録すると、選択した情報をどこでも入手できます。

ティーズ12ch

ティーズチャンネルで防災情報が確認できます。避難する際の参考にしてください。

中部電力からの情報

停電情報をスマホで確認できます。



▲iPhone版



▲Android版

気象庁からの情報

キキフル

雨雲の動き、今後の雨、土砂災害、浸水害、洪水の情報がリアルタイムで配信されています。



▲気象庁ホームページ

防災行政無線の活用方法

大雨や台風などの災害時には、市は防災行政無線や市ホームページ、SNSなど、さまざまな手段で市民の皆さんへ情報を発信します。

各ご家庭に配布している防災行政無線戸別受信機は普段、コンセントを利用して給電している場合が多いです。しかし、停電時にはコンセントから給電することはできません。この戸別受信機は、非常時に乾電池を利用して放送を聞くことができます。停電時に備え、電池の備蓄をお願いします。



使用できる乾電池

各家庭にある戸別受信機によって使用できる乾電池が異なります。自宅にある戸別受信機は、どの乾電池が使用できるかを確認して備蓄しておきましょう。なお、単一電池から単3電池までサイズに合わせて使用することが出来る戸別受信機もあります。使用する電池サイズに「ツメ」の位置を調節して、指定数値の電池をご利用ください。

新城市防災アプリ

新城市防災アプリで防災行政無線の内容を聞くことができます。このアプリは、市からの防災行政無線

放送が流れるとプッシュ通知でお知らせが配信されます。スマートフォンやタブレットで無線放送内容を音声や文字により確認できるので、自宅以外でも情報を取得できます。

アプリ機能

- ◆ 防災行政無線放送内容の通知・再生
- ◆ 現在地から指定避難所までの経路の表示
- ◆ ハザードマップの表示
- ◆ 市ホームページの表示
- ◆ 気象情報の表示
- ◆ 停電情報(中部電力ホームページ)の表示
- ◆ 非常用持出品・備蓄品の表示
- ◆ 多言語対応(10カ国)

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。家の近くに危険な場所がある方は、事前にさまざまなことを確認しましょう。

日頃からハザードマップで危険箇所をチェック

ホームページID 161141154

大雨や台風ときには、増水した川や崖、沢など、危険な場所には近づかないようにしましょう。避難するときも安全なルートを通って移動できるように、ハザードマップを活用して、危険箇所を確認しましょう。

ハザードマップは、過去に発生した災害の被害状況を基に、台風や集中豪雨による洪水、崖崩れなど、大規模自然災害における被害発生状況を予測し、地図に書き込んだものです。

ハザードマップには、河川が氾濫した場合に浸水が予想される地域、土砂災害の発生する危険性のある地区などが示されています。あらかじめ知っておくことで、早めに避難行動をとったり、危険を回避して移動したりすることが出来ます。

新城市には3つの地域（新城地区、鳳来地区、作手地区）の洪水・土砂災害ハザードマップがあります。市ホームページからダウンロードして、事前に危険箇所を把握しましょう。



また、ハザードマップを確認することは重要ですが、過信は禁物です。ハザードマップで危険な地域になつていなくても、「自宅は大丈夫」と甘く考えず、早めに避難行動をとることが大切です。



避難場所の確認

小中学校や公民館などの避難所へ行くことだけが避難ではありません。避難には次の3つの行動があります。

市が指定した避難所への避難

ホームページID 426844692

防災グッズを持参して行きましょう。避難が長期化することもある考え、非常食は数日分持つて行きましょう。

自宅での安全確保

自宅にとどまる場合には、あらかじめハザードマップで自宅周辺が安全な場所か確認し、念のため2階や山に面していない部屋などに避難しましょう。

安全な親戚・知人宅

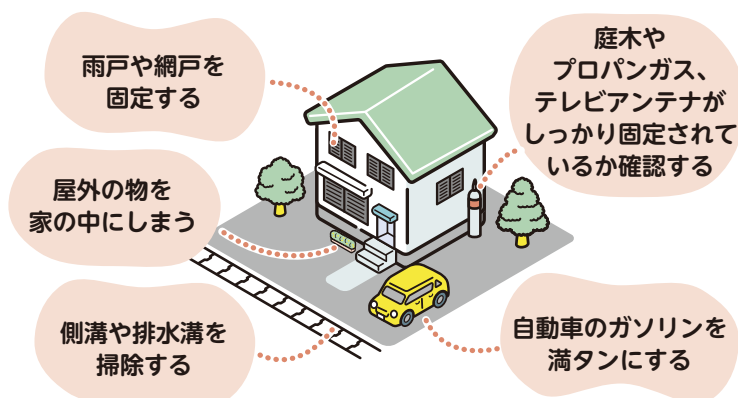
普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。また、やむを得ず車中泊をする場合には、浸水などの被害がないよう、十分に回りを確認しましょう。



▲避難場所を確認している様子

雨や風が強くなる前に 家の外と中の備えの確認を

雨が降ったり、風が強くなったりする前に、窓や雨戸はしっかりと閉め、必要に応じて補強する、家の近くの側溝は掃除して水はけをよくするなどの準備が大切です。風で飛ばされそうな庭木やプロパンガスなどは飛ばないように固定しましょう。そして自動車のガソリンを満タンにするなど、家の外の備えをしておきましょう。雨や風が強くなってからでは、外での作業は危険です。



また、飛散防止フィルムを窓ガラスに貼る、水を確保する、スマートフォンやパソコンをフル充電するなど、室内の備えもしましょう。



さらに、避難が必要になったときに備えて、避難場所だけでなく食料や薬、携帯ラジオなど非常用に持ち出すものの確認なども行っておきましょう。



絶対必要なトイレ対策

災害時には断水し、通常のようにトイレを使用できなくなることがあります。災害時にトイレを我慢することでストレスを抱えたり、不安を感じたりすると心身への負担も大きくなってしまうです。

災害時に自分と家族の健康を守るためにも「携帯トイレ」や「簡易トイレ」を備蓄しておきましょう。

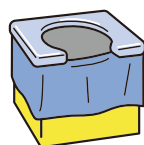
携帯トイレ

便器や簡易トイレに取り付けて使う、袋と凝固剤、給水シートがそろったものです。



簡易トイレ

便器が使えないときのための、便座付きの小型トイレ。携帯トイレも合わせて備蓄が必要です。



除菌用品・トイレットペーパー

手を洗えない時のために、除菌・消毒用品やトイレットペーパーも備蓄しておきましょう。



防災対策で重要な「自助」とは？

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。

その中でも基本となるのは「自助」です。災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。自らの命は自らが守る意識を持ち、一人ひとりが自分の身の安全を守りましょう。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外で台風や地震などに遭遇したときの、身の安全の守り方を考えておきましょう。

